学生からのメッセージ FROM STUDENTS

グローバル社会における英語の意義

福岡歯科大学 第3学年
時 芸耘

私は、同じ学年の木下志津さん（写真左）とともに今年の5月に休部していたＥＳＳ部を再開させました。私はこれまで英語が好きで、大学でも英語を学び続け将来に役立てたいと思っていました。でも、一人で大学の勉強の傍らで英語を学ぶことは難しいことでした。そうしたときに同じ意志を持った友達と出会い、一緒にＥＳＳ部を再開させることとしたのでした。それに、現代の社会において英語は必須とも考えています。私たちは新型コロナウイルス感染症の流行と抑制はグローバル社会の産物の一つと考えており、急速な流行は、国と国のつながりが深まり、人々が行き来しやすくなったからと推測します。また、抑制されているのも、国と国が協調して拡大防止措置を講じたり、ワクチンを普及させたりしたからと考えられます。このような国境間のコミュニケーションが欠かせないグローバル社会において、英語は欠かせないものです。

部活動ではネイティブの先生と会話したり、英語の資格試験の勉強をしたりして、自分たちの英語力を高めています。今は小さな一歩に見えるかもしれませんが、この活動を積み重ねることで、将来、自分たちが世界の架け橋となる大きな一歩へとつながると信じています。

保護者からのメッセージ FROM PARENTS

明るい未来へ

福岡歯科大学学生後援会 理事
田中 靖彦

この広報誌が届くころには、2年ぶりに開催されたオールデンタルで活躍して一息ついていることと思います。私も6年間クラブ活動をした保護者としましては、大変うれしく思っています。

さて、現在の歯科界も大きく変わっています。政府が出した「骨太の方針」の中に国民皆歯科健診の文言が入り、今後歯科の重要性が再認識されます。また、自院での診療以外にも、地域での口腔衛生事業は勿論ですが、災害時の身元確認や歯科保健活動、スポーツ歯科への関わりなど、多くのことで国民をサポートするようになっています。そのためにも皆さんが卒業してからの力が必要です。

今からも多くの壁にぶち当たると思います。しかし、その壁を乗り越えることが自信と勇気になり、人間として大きく成長させてくれると考えています。知識や技術だけでなく、部活や様々なボランティア活動などで多くの友人や先輩との繋がりを作り、心も豊かになるよう自分自身を磨いていただきたいと思います。皆さんが、福岡歯科大学での学園生活で良き友に巡り合い、良き師に恵まれて、歯科医師への道を切り拓くことを願っています。

New Sophia コラム

ナンバンギセル

ナンバンギセル（南蛮煙管、*Aeginetia indica*）はハマウツボ科ナンバンギセル属の植物。7月から9月頃にススキの原で根元を丹念にかき分けると、ピンク色の可愛らしいこの花を見つけることができる。

葉緑素を持たず、自分で栄養を生産することができないため、イネ科の植物に寄生して宿主の根から吸収した栄養分に依存して生育する。イネやイネ科のサトウキビの収量を減らす被害もあり、これを嫌うむきもある。

名前の由来は、西洋人のくわえたパイプにその姿が似ることから。しかし、古くから日本ではこの花が知られており、万葉集には「道の辺の尾花が下の思い草今さらになぞ物か思はむ」と、思い草の名で現れる。道端の尾花（ススキ）の下にある思い草（のように首を垂れてあなたを慕っているのに）、としたこの呼び名のほうが数段の趣がある。

（内藤 徹）

編集後記

あっという間に梅雨が明け、夏本番を感じさせる陽気が続いています。50周年記念講堂のお披露目となる50周年記念式典を前に、福岡学園の変遷を空撮でたどる特集を掲載しています。読者の皆様に学園で過ごした時を思い返していただければ幸いです。他にも種々の話題を提供させていただきます。ゆっくりとお楽しみください。